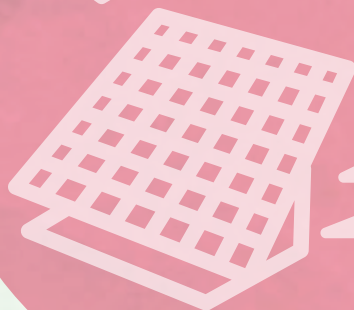


第46期 第2四半期
株主通信

2023.4.1～2023.9.30



次世代へ快適な環境を。
人が暮らし、集う場所にサニックス。



SANIX
株式会社サニックス

ネットでアンケートご協力をお願い

株主の皆様からのご回答を
今後のIR活動の参考にさせていただきます。
(アンケートの方法は、裏面に記載しています。)

証券コード:4651



代表取締役社長

佐藤 徹

ご挨拶

株主の皆様には平素よりご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

第46期第2四半期(2023年4月1日から2023年9月30日まで)における業績報告として、ここに「株主通信」をお届けいたします。

まず、2024年3月期の中間配当につきましては、利益剰余金がマイナスであることから、誠に遺憾ながら、無配とさせていただくことをお詫び申し上げます。株主・投資家の皆様には、たいへん申し訳なく、深謝申し上げる次第です。

当社グループが目指す「次世代へ快適な環境を」という企業理念に基づき、環境を核とした各事業を通じて成長を図り、早期復配を目指してまいり所存です。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

なお、当社は2023年10月20日より、東証プライム市場からスタンダード市場に移行いたしました。2023年4月1日施行の東京証券取引所の規則改正、及び現状のプライム市場の上場維持基準への適合状況を踏まえ、株主の皆様が継続して当社株式を保有・売買できる環境の確保を重視するとともに、中長期的な目線で新たな成長戦略の実行に経営資源を振り向ける環境に身を置くことが、当社の持続的な成長や企業価値向上に資すると判断したものです。

これからも、皆様のご期待にお応えできるよう、当社グループ一丸となって、企業価値向上に取り組んでまいります。重ねて、株主の皆様のご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

2023年12月

Q 当第2四半期の市場環境、決算のポイント等について教えてください。

新型コロナウイルス感染症の規制緩和を受け、インバウンド需要の回復もあり、緩やかに国内経済は回復してきたと感じる一方で、不安定な国際情勢の中、資源・エネルギー価格の高騰や円安進行に伴い原材料価格が上昇しており、依然として先行き不透明な市場環境が継続していると懸念しています。

このような社会情勢の中、当社グループは、企業理念である「次世代へ快適な環境を」のもと、住環境領域、資源循環領域、エネルギー領域の各領域において、事業を通じた社会課題の解決を推進し、持続可能な社会づくりに、取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期に対して減収となりました。主な要因といたしましては、新電力事業部門において電力調達コストの上昇によるリスクを回避するため事業縮小を進めたことが挙げられます。

利益につきましては、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属それぞれ増益となりました。環境資源開発事業部門において、2023年4月に苫小牧発電所(ボイラー・タービン)の法定点検に伴う修繕費を計上したことでコストが増加いたしました。売電契約単価の上昇により採算性が向上したことで増益となりました。

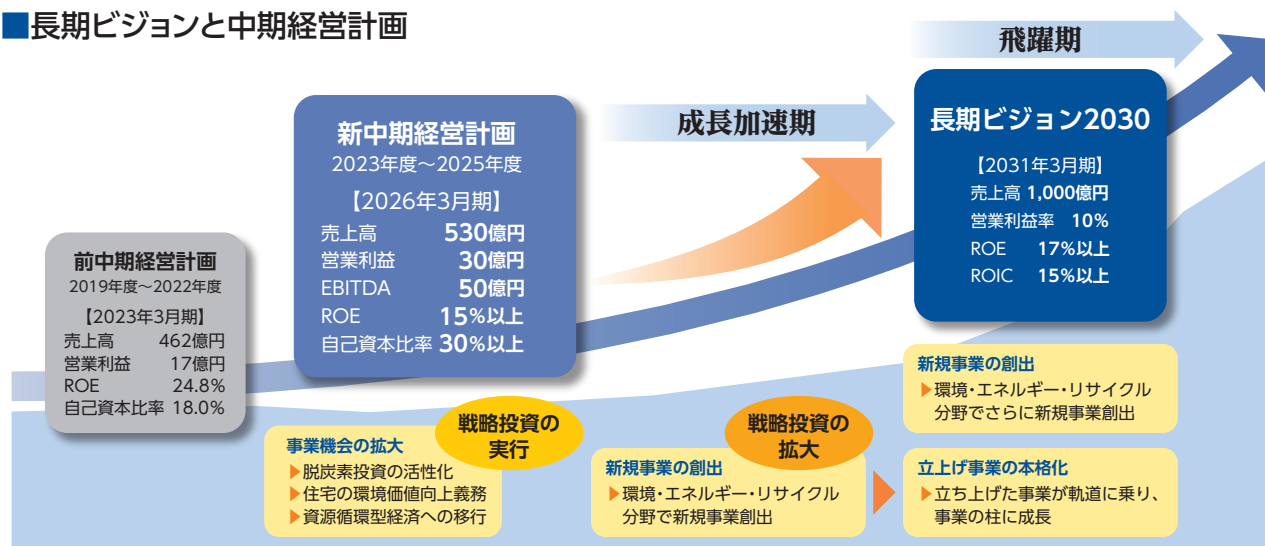
決算ハイライト

売上高	22,589 百万円	(前年同期比 0.3%減)
営業利益	1,481 百万円	(前年同期比 98.5%増)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,126 百万円	(前年同期比 154.4%増)

Q 2024年3月期の業績見通しについて教えてください。

2024年3月期の通期連結業績見通しについては、前期比増収増益となる売上高479億円、営業利益32億円、経常利益30億円、

■長期ビジョンと中期経営計画



親会社株主に帰属する当期純利益24億円を見込んでおります。事業領域ごとの事業戦略については次のとおりです。

住環境領域においては、HS(一般家庭向け)部門では、地域に密着した新規開拓に加え、JA等の業務提携先の拡大に向けた法人営業体制を強化することで、新規顧客チャネルの拡充を進めてまいります。ES(法人向け)部門では、管理会社などの提携先開拓や、既存提携先の密なフォロー、また展示会等の活用により、不動産オーナーとの接点を積極的に増やしてまいります。

SE(戸建住宅向け太陽光発電)部門では、戸建住宅における脱炭素、省エネルギー化の政策的な後押しや、電気代削減・レジリエンス向上(災害対応)ニーズを捉え、太陽光発電システムや蓄電池の拡販を進めてまいります。

エネルギー領域においては、PV(法人向け太陽光発電)部門では、非FITモデル(固定価格買取制度に寄らない形態)に完全移行し、法人・自治体向けの自家消費型太陽光提案、エネルギー事業者との提携をベースとした再エネ(太陽光発電)電源開発、既設太陽光発電所におけるアフターメンテナンスを推進してまいります。新電力部門では、事業リスクを最小化するための事業構造の転換が完了し、採算性を確保できる事業規

模となっております。

資源循環領域においては、環境資源開発部門で、苫小牧発電所の売電契約単価が上昇することから、「発電所売上」の大きな増収を見込んでいます。「プラスチック燃料売上」、「廃液処理売上」については、既存取引先の細かなフォローを基盤に、新規取引先の開拓により、着実に受入量を拡大した上で、継続的な取引を確保してまいります。また、マテリアルリサイクルへの参入により、受入可能な廃棄物の幅を広げてまいります。

Q この2024年3月期から実行中の新中期経営計画についてお聞かせください。

「中期経営計画(2024年3月期～2026年3月期)」については、既存事業の着実な成長により「稼ぐ力」を強化し、安定的な財務基盤を確保するとともに、戦略投資枠を設定し、将来の成長に向けた積極的な成長投資を開始する期間として策定しました。戦略投資の実行により将来の成長を加速し、さらなる戦略投資枠の拡大を目指してまいります。(詳細は3ページに記載)

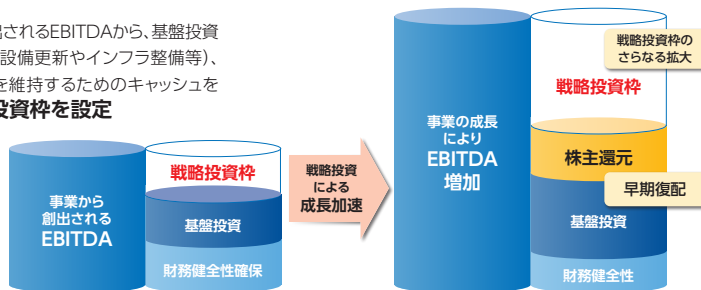
中期経営計画 (2024年3月期－2026年3月期)

既存事業の着実な成長と将来の成長に向けた「戦略投資」をスタート

戦略投資の考え方

事業全体で創出するEBITDAを原資に、**戦略投資枠を設定し**、成長投資を実行
 戦略投資により、将来の成長を加速し、さらなる**戦略投資枠の拡大**と、**早期復配**を果たす

事業から創出されるEBITDAから、**基盤投資**
 (既存事業の設備更新やインフラ整備等)、
 財務健全性を維持するためのキャッシュを
 除き、**戦略投資枠を設定**



2026年3月期目標

売上高	530億円
営業利益	30億円
自己資本比率	30%以上
EBITDA	50億円

●成長投資① 事業領域の拡大

プラスチック事業

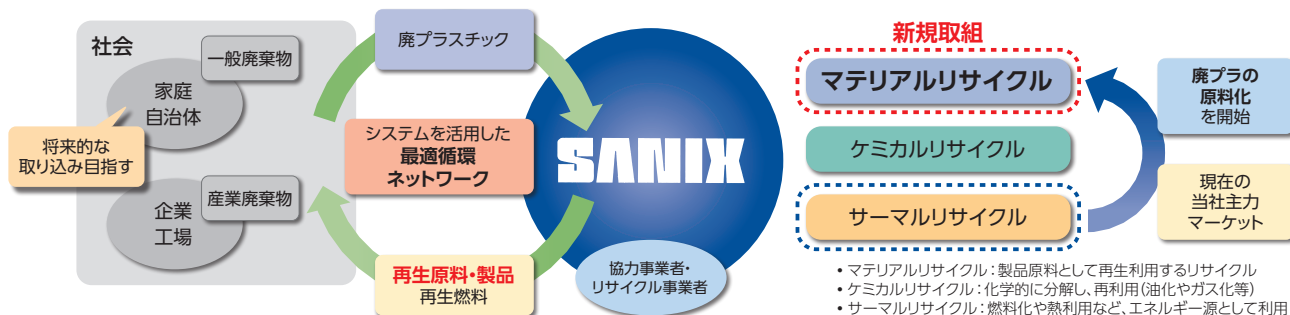
マテリアルリサイクルを本格開始し、事業領域を拡大

ソフト面 廃棄物管理システムによる 資源循環ネットワークの構築

- 排出事業者向け「SANIX system」、収集運搬事業者向け「SANIX system プロ」の販売開始
- システムの普及拡大と高度化により、将来的には廃棄物のリサイクルネットワークを構築し、社会全体のリサイクル率向上を目指す

ハード面 マテリアルリサイクル設備の導入

- 硬質系プラスチックの処理設備を新規導入し、リサイクル事業者等との協業をベースに原料化、再生製品へのリサイクルを展開
- 将来的には、自治体から排出される容器包装リサイクル用途の廃プラスチックの取り込みも目指す





●成長投資② 既存設備の増強・効率化

廃液処理事業

再生油生産ライン倍増+汚泥燃料化



原料となる産業廃棄物

再生された「再生油Bio」

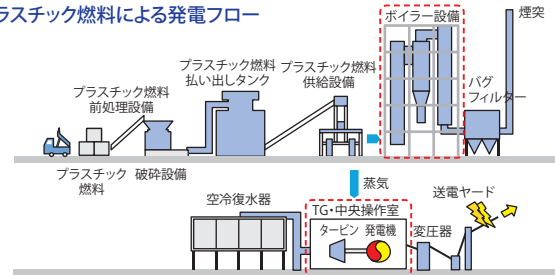
- 廃液の浄化処理を行っているひびき工場に搬入される有機性廃液由来の再生燃料「**再生油Bio**」*の**生産ラインを増設**
- ✓ 化石燃料の代替燃料としての引き合いが強く、2024年3月期中に現状の1ラインから2ラインに生産ラインを倍増予定
生産能力 **2,160t/年**▶**4,320t/年**へ
- また、有機性廃液に含まれる**汚泥分を固形燃料化するラインを新設**、2026年3月期からの稼働開始を見込む
- ✓ 汚泥の処分費用の削減とともに、燃料販売収益が新たに発生

*「再生油Bio」は、環境価値の高さを評価され、「令和3年度北九州エコプレミアム」、「第15回福岡県産リサイクル製品」として認定、ならびに令和5年度資源循環環境技術・システム表彰「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞した廃棄物再生燃料

発電事業

設備更新+発電能力向上

プラスチック燃料による発電フロー



- 2003年10月の稼働開始以降、約20年が経過した苫小牧発電所の主要設備を中心に、将来的な安定稼働・効率化に向けた大規模投資を開始
- ✓ **ボイラー設備**：2025年3月期より5年程度をかけて、ボイラー内部の配管を順次交換
- ✓ **タービン・発電機**：2026年3月期にタービン・発電機のリニューアル実施
最適設計により、**8%程度の発電能力向上**を見込む

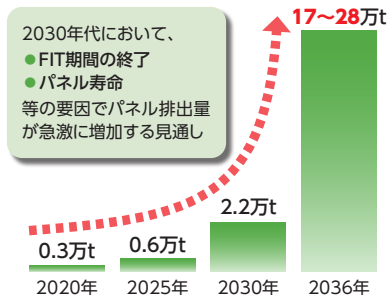
●成長投資③ 事業化に向けた研究開発

新規事業の研究開発

使用済み太陽光発電パネルのリサイクル実証を開始

2030年代に使用済みの太陽電池パネルが大量に発生する見通しを前提に、太陽光発電パネルの知見と産業廃棄物の処理ネットワークを持つ当社の強みを活かし、**太陽電池パネルのリユース・リサイクル事業の事業化を目指し、技術検証ラインを構築**

■国内におけるパネル排出量予測



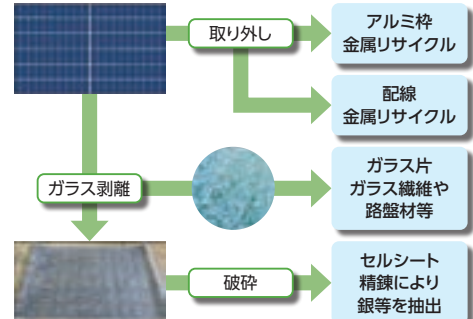
※出典：NEDO推計より当社加工

太陽光発電事業にて積み上げた膨大な太陽電池パネル出荷実績

- 住宅用：約2万件
- 事業用：約2.9万件
- 累計約1.4GW
- 約500万枚のパネル累計出荷実績 (2023年9月末現在)

全国で展開している産業廃棄物処理・リサイクル拠点網の活用

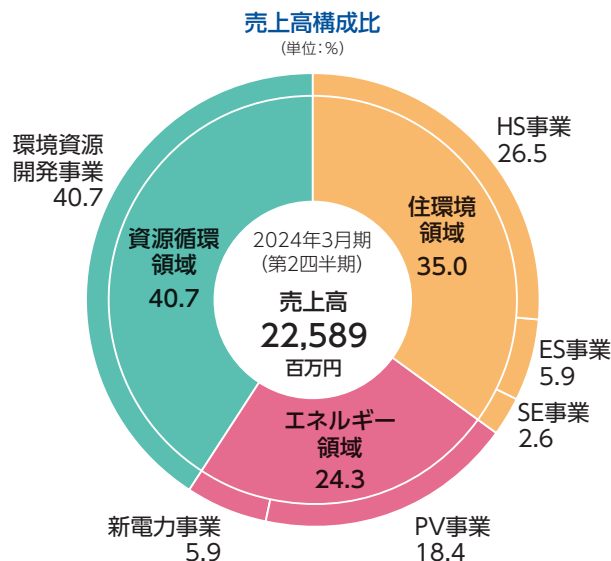
■パネルリサイクルイメージ



当第2四半期 営業の概況

グループ全体の売上高につきましては、環境資源開発事業部門が発電売上で今年度の売電契約単価が上がったことにより増収となったものの、新電力事業部門において電力調達コストの上昇によるリスクを回避するため事業縮小を進めたことで減収となり、売上高は22,589百万円(前年同期比0.3%減)となりました。

利益につきましては、環境資源開発事業部門において、苫小牧発電所の売電契約単価が上昇したことにより利益が向上し、グループ全体の損益は、1,481百万円の営業利益(前年同期比98.5%増)、1,343百万円の経常利益(前年同期比119.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,126百万円(前年同期比154.4%増)となりました。



住環境領域 快適な住環境を次世代につなぐのが当たり前の社会へ

売上高 **7,904**百万円 営業利益 **853**百万円

HS (ホーム・サニテーション) 事業

事業内容

一般家庭向けの環境衛生に係る施工等、具体的には白蟻防除施工や基礎補修工事、床下・天井裏換気システム施工等を行っています。



当第2四半期の営業概況

新規顧客の開拓を重視した営業方針を強化し、顧客基盤の拡充に向けた取り組みを推進してまいりました。この結果、白蟻防除施工は堅調に推移したものの、既存顧客を対象としたサービスは減収となり、売上高は5,983百万円(前年同期比2.3%減)となりました。

営業損益は、前年同期比減収となったものの、外注工事費の減少、ならびに販費等の固定費の削減効果により、891百万円の営業利益(前年同期比0.8%増)となりました。

ES (エスタブリッシュメント・サニテーション) 事業

事業内容

企業向けの環境衛生に係る施工等、具体的には、ビル・マンション等の建物給排水設備維持保全施工等を行っています。



当第2四半期の営業概況

ビル・マンション等のオーナー及び管理会社等提携先との関係強化を進めてまいりました。主力商品である「防錆機器取付施工(商品名:ドールマンショック)」が前年同期比8.0%増となり、売上高は1,326百万円(前年同期比11.4%増)となりました。

営業損益は、前年同期比増収となったことにより、26百万円の営業利益(前年同期比198.7%増)となりました。

エネルギー領域 環境負荷の低いエネルギーが当たり前の社会へ

売上高 **5,486** 百万円 | 営業利益 **18** 百万円

PV事業

事業内容

法人向け太陽光発電システムについての調達から販売・施工・メンテナンスを行っています。



当第2四半期の営業概況

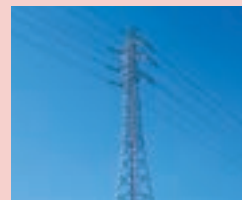
企業・法人向けに自家消費型太陽光発電システム等の販売施工、自治体へのPPA事業の提案、土地付太陽光発電所の販売、既設太陽光発電システムの機器交換、メンテナンス等に注力してまいりました。この結果、売上高は4,151百万円(前年同期比21.8%増)となりました。

営業損益は、材料資材等の価格上昇の影響もあり、50百万円の営業損失(前年同期は159百万円の営業損失)となりました。

新電力事業

事業内容

法人・一般家庭向けの新電力事業を行っています。



当第2四半期の営業概況

電力調達コストの上昇により採算性の確保が困難であると判断し、昨年来、事業縮小を進めてまいりました。この結果、売上高は1,335百万円(前年同期比54.2%減)となりました。

営業損益は、前年同期は相対取引による電力調達の余剰分を、相対調達価格よりも高騰していた卸電力市場での売却により利ざやを得ることができましたが、卸電力市場が落ち着いてきたことに加え、事業縮小による減収もあり、69百万円の営業利益(前年同期比48.2%減)となりました。

資源循環領域 捨てないのが当たり前の社会へ

売上高 **9,198** 百万円 | 営業利益 **1,981** 百万円

SE (ソーラー・エンジニアリング) 事業

事業内容

戸建住宅向け太陽光発電システムについての調達から販売・施工・メンテナンスを行っています。



当第2四半期の営業概況

戸建てに特化した太陽光発電システム等の販売に注力してまいりました。前年同期比で蓄電池の販売、既設太陽光発電システムのパワーコンディショナー交換工事は増加したものの、業務提携先の開拓に人員を割いたことにより、一時的に売上水準が低下しました。この結果、売上高は594百万円(前年同期比25.0%減)となりました。

営業損益は、減収となったものの採算性の改善を進めたことにより、64百万円の営業損失(前年同期は100百万円の営業損失)となりました。

環境資源開発事業

事業内容

産業廃棄物として回収した廃プラスチックを加工し、それを燃料とした売電事業を行っています。また、外食産業や食品工場等から排出される廃液を受け入れ処理しています。



当第2四半期の営業概況

廃棄物の受入量が減少したことにより「プラスチック燃料」が前年同期比3.2%減、「廃液処理」が前年同期比2.7%減、「埋立処理」が前年同期比0.3%減となりました。一方、苫小牧発電所の売電契約単価が上昇したことにより「発電所売上」が前年同期比66.3%増となりました。この結果、売上高は9,198百万円(前年同期比11.9%増)となりました。

営業損益は、苫小牧発電所の法定点検による修繕費を計上したものの、売電契約単価が上昇したことにより採算性が向上し、1,981百万円の営業利益(前年同期比27.1%増)となりました。

サニックスのESG

当社グループは、事業活動によるお客様への価値提供を通じて社会課題の解決を図ることを価値創造モデルとしており、このビジネスモデルによって、「次世代へ快適な環境を」という企業理念を実現してまいります。

数字で見るサニックスグループ (2023年9月末現在)



シロアリ消毒施工軒数
約**830,000**軒



ペストコントロール施工軒数
(事業所向け害虫・害獣防除)
約**34,000**軒



給排水管維持管理施工件数
(防錆機器設置等)
約**39,000**件



廃液処理量
約**2,500,000**t



ユース世代のスポーツイベント
歴代参加者数
(ラグビー・サッカー・ハンドボール・新体操・柔道)
43カ国・地域から約**52,600**人

地球環境への貢献



太陽光発電販売・施工件数
(自社施工分)
約**49,000**件
(うち住宅用 約20,000件)
容量で約**1.4GW**(原発1基分相当)



資源循環型発電
プラスチック処理量
約**6,000,000**t
苫小牧発電所 発電量
約**5,000,000**MWh

スポーツ・文化を通じて、青少年の健全育成と国際交流に貢献

「サニックスプレゼンツ グローバルアリーナ・ブルガリアフェスティバル2023」開催 (9/13~9/24)

当フェスティバルは、ブルガリアの音楽、民族舞踊をはじめ、現地直送のワインや民芸品などを紹介する国際交流イベントです。2001年より20年以上にわたって毎年開催し、日本と同国との友好を深める役割を担っております。

今年は、4年ぶりにブルガリアで最も長い歴史を誇る青少年舞踊団“カザンラック民族舞踊団”が来日しました。当舞踊団は、イベント会場(グローバルアリーナ)や地方公演での舞踊披露の他、福岡県宗像市との協同で、市内の小中学校での異文化交流授業も実施しました。



「サニックス ラグビーアカデミー」の運営

2022年9月開講のラグビー塾、サニックスラグビーアカデミー。現在、週3回、平日夜に開催し、受講生(小学5年生~中学生)は開講当時の57名(2022年9月末)から、144名に増えています(2023年10月1日現在)。

ラグビー部(2022年5月に活動休止)で培った28年間の経験、人材や施設を活用し、ラグビーを通じた地域貢献を継続してまいります。

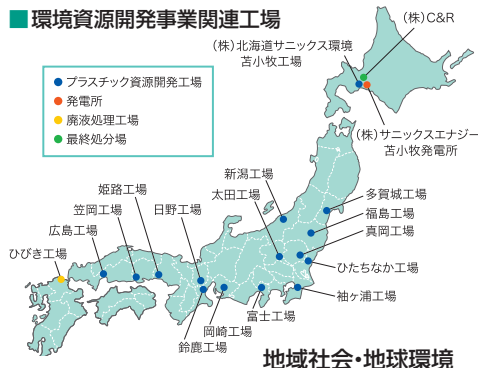


「静脈産業」の一員として、 地球環境と産業発展の調和を目指す

持続可能な社会づくりが世界共通の課題となる今、産業廃棄物の適正処理・リサイクルは、重要なテーマです。

サンニクスグループは、廃プラスチックの燃料化リサイクルや、食品工場等から排出される廃液の浄化など、次世代の地球環境を考慮した事業を通じ、循環型社会の構築を図ります。

価値創造モデル (提供する価値)



主な商品・サービス〈環境資源開発(ERD)事業〉

廃プラスチックの燃料化

産業廃棄物系プラスチックの燃料化を目的とした工場(プラスチック資源開発工場)を、全国各地に15工場展開。大きさや形がさまざまな廃プラスチックを細かく破砕することにより、石油・石炭などの代替燃料として再生。また、マテリアルリサイクルを本格的に開始しています。



プラスチック資源開発工場



プラスチック燃料のストックヤード

資源循環型発電システム

プラスチック資源開発工場で燃料化したプラスチックを、発電施設のエネルギー源として利用。石炭と比べて、発熱量が高く、CO₂排出量や焼却灰発生量が少なく、済むことから、環境負荷が低く、付加価値(非化石価値)の高い電気を供給します。



(株)サンニクスエナジー 苫小牧発電所



最終処分場 (株)C&R

廃液の浄化処理・リサイクル

外食産業の店舗や食品工場、その他雑廃水ピットなどから排出される廃液などを、大量に受け入れる体制を整えています。一連の処理工程により、高濃度の汚濁成分を99%以上除去する能力を有しています。また、油分や、脱水污泥の燃料化リサイクルも推進しています。

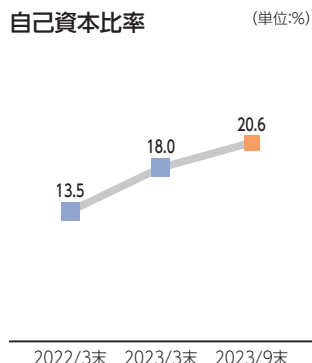
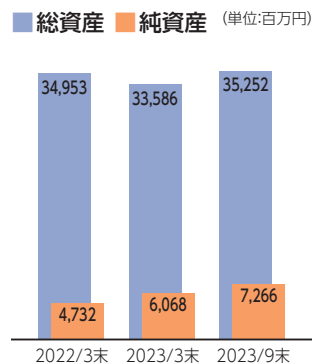
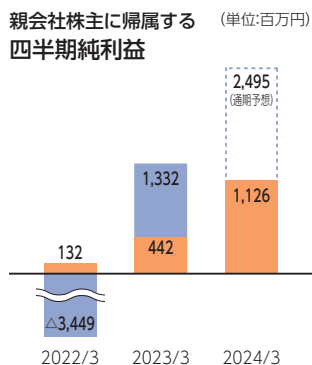
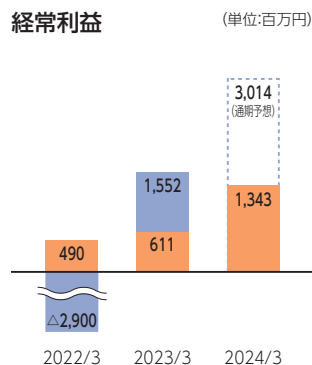
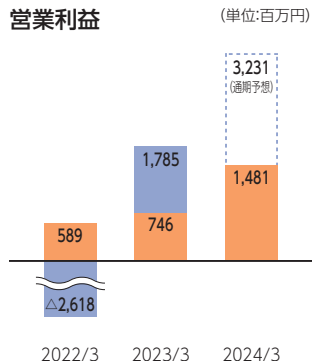
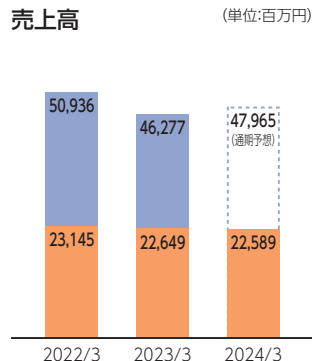


ひびき工場 (廃液処理工場)

決算ダイジェスト

2024年3月期 第2四半期の連結業績

(2023年4月1日～2023年9月30日) ■ 第2四半期 ■ 通期



会社概要 / 株式状況

会社概要 (2023年9月30日)

商号	株式会社サニックス (英文名 SANIX INCORPORATED)
本社所在地	福岡市博多区博多駅東2丁目1番23号
設立	1978年9月
資本金	140億4,183万円
社員数	2,076人(連結)

役員 (2023年9月30日)

代表取締役社長	宗政 寛
取締役副社長執行役員	稲田 剛士
取締役常務執行役員	増田 道正
	金子 賢治
	田畑 和幸
	武井 秀樹
取締役執行役員	井之上 基
取締役	高木 哲夫
取締役・監査等委員(常勤)	井上 公三
取締役・監査等委員(社外)	近藤 勇
	金子 直幹
	久保田 康史
	安井 玄一郎
	馬場 貞仁

(注) 近藤 勇、金子 直幹、久保田 康史、安井 玄一郎、馬場 貞仁は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

株式の状況 (2023年9月30日)

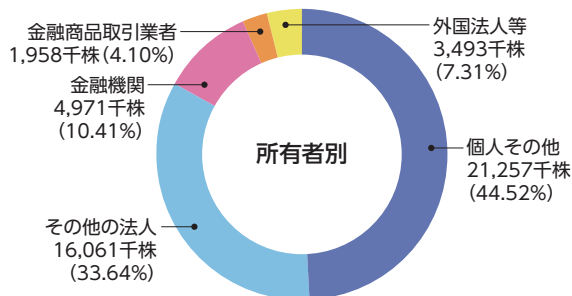
発行可能株式総数	163,500,000株
発行済株式総数	48,919,396株
株主総数	12,374名

大株主

氏名または名称	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社バイオン	8,716	18.23
宗政 寛	6,454	13.50
光通信株式会社	3,582	7.49
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,530	7.38
一般社団法人サニックス共済会	1,700	3.55
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	1,226	2.56
サニックス社員持株会	1,202	2.51
株式会社SBI証券	812	1.69
株式会社UH Partners 2	676	1.41
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	548	1.14

※持株比率は自己名義株式(1,115,033株)を控除して計算しております。

株式分布状況



※持株比率は自己名義株式(1,115,033株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会議決権の基準日	毎年3月31日
剰余金配当の基準日	毎年3月31日、6月30日、 9月30日、12月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-288-324(通話料無料)
株主総会資料の 電子提供制度(書面交付請求) についてのお問い合わせ	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電子提供制度専用ダイヤル TEL 0120-524-324(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場、 福岡証券取引所

電子公告

公告掲載URL <https://sanix.jp>

公告の方法

ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、みずほ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(みずほ信託銀行)にお問い合わせください。なお、みずほ信託銀行及びみずほ証券全国各支店にてもお取次ぎいたします。

シロアリや湿気の害からマイホームを守ります。

見えないところだからこそ、定期的なチェックをお勧めします。

まずは

床下調査(無料)でお住まいの健康をチェック!

お客様のご都合に合わせて、サニックスの専門スタッフが伺います。
日時の指定ができますので、お気軽にお申し付けください(日曜・祝日の調査も可能です)。



床下調査

床下収納庫や和室の畳を上げて入ります。



結果報告



ご提案・お見積り
調査・お見積りは無料です。



責任施工
(有料)



シロアリ消毒
安心保証(5年間)

お客様相談室(通話料無料) ☎ 0120-39-3290 受付時間 8:30 ~ 17:30(土日祝も承っております)

株主アンケートご協力のお願い

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード(4651)入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



株主の皆様からのご意見・ご要望を今後の活動の参考とさせていただくため、WEBアンケートを実施いたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから2023年12月31日(日)までになります。

アクセス方法

パソコンから

下記のURLからアクセスいただけます。

<https://q.srdb.jp/>

スマートフォン・携帯電話から

QRコード読み取り機能のついたスマートフォンまたは携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからアンケート画面へアクセスいただけます。



メールから

enq@q.srdb.jpへ空メールをご送信いただき、自動返送されるアンケート回答用のURLからアクセスいただけます。

株式会社サニックス

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目1番23号

TEL.092-436-8870

URL.<https://sanix.jp>

サニックス

検索



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。